

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	全身麻酔時のオピオイドの必要量はレミマゾラムとプロポフォールで異なるか？
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2023年1月～2024年12月に運動誘発電位モニタリング下に行われた脊椎外科手術患者 責任者：古谷健太	
③概要	
レミマゾラムは代表的な静脈麻酔薬であるプロポフォールと比べ、投与時の血圧への影響が小さく、また拮抗薬（効果を打ち消すことができる薬剤）があるので、速やかな麻酔からの覚醒が期待できるといった特徴があります。一方でレミマゾラムに痛みを軽くする作用があるかどうか、一定の見解がありません。我々は、レミマゾラムを使用した人では、プロポフォールを使用した人よりも、術中のオピオイド（鎮痛薬）必要量が多いのではないかと考え、調べています。本研究では、既に診療録および麻酔記録装置に記録されたデータを用います。データを使用してほしくないという申し出があれば、それを拒否できますし、拒否したことにより診療上の不利益は生じません。	
④申請番号	2025-0114
⑤研究の目的・意義	本研究により、レミマゾラムが抗侵害作用（鎮痛作用）を有しているのかどうかを臨床的に評価し、今後の麻酔管理、疼痛管理の改善を目指します。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2027年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	診療録および麻酔記録から必要なデータを抽出し、統計解析を行ったうえで、本研究のためにのみ使用します。新潟大学内でのみ使用し、他施設には提供しません。
⑧利用または提供する情報の項目	診療記録、検査データ（いずれも個人が特定されないように管理します）
⑨利用する者の範囲	新潟大学で利用いたします。 新潟大学 麻酔科 古谷健太
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 麻酔科 古谷健太
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：麻酔科 氏名：古谷健太 Tel：025-227-2328 E-mail：kenta-f@med.niigata-u.ac.jp